

紙面から

教育随想

「苦しんでいる子どものこころ」

前岡崎市民病院副院長

矢澤 武氏

羅針盤

「ストレスへの対応」

矢作南小学校長 山内 博史

この人に聞く

「模型を愛し半世紀」

元模型店 店主 近藤 廣二氏

特集

「キャンパスライフを支えて」

—岡崎育英会東京学生寮—

ふれあい

「最高記録の舞台裏で」

岡崎小学校 蓮尾 洋子

師弟同行

前三島小学校長 長坂 則彦

美合小学校 香村 敏之

フォト・ヒストリー岡崎の教育

ふれあい牧場 (平成三年)



5月号

平成12年5月1日

発行/編集
岡崎市教育委員会



たくましいからだ 豊かな心 学力



今月の学校紹介
～恵田小学校～

市民病院小児科で「心身症外来」を開いている。ここを訪れる子ども達は、不登校児、神経性食思不振症、過換気症候群など多彩な訴えを持っている。今回、不登校児について紹介する。

Iちゃんの場合。母子家庭の長女で、働いている母に代わって妹達の面倒をみていた。小学校三年生で不



登校となり、中学一年生で神経性食思不振症でガリガリにやせてしまった。性格テストや心理テストの結果で判明したことは、Iちゃんは母の愛情を欲しがったため、家庭を離れて登校するということが出来なくなり、それでもまだ母の愛情を欲しがって、自分の身体をやせさせて、母の視線が自分に向けられるようにし

たということだった。子どもの間の心理的戦いの場での自己表現だった。母子関係が正常となつて、Iちゃんは普通になり、落ち着いて勉強を始めた。

Iちゃんの場合。小学校四年生までは明るくハキハキと返事もよく、成績も上位でクラスの仲間からも好かれていた存在感のある女の子だっ

— 教育随想 —

苦しんでいる 子どものころ



前岡崎市民病院副院長

矢 澤 武

た。突然食べられなくなり、学校へ通うことも嫌がるようになってしまった。不登校と神経性食思不振症の両方になってしまった。心理テストと性格テストの結果、Hちゃんは心理的スタミナ切れという状態で、一生懸命学校でも家庭でも「よい子」になってやってきたが、自立を目指す年齢になって、自分自身を素直に

表現できず、他人の視線が気になつて、「ひきこみ現象」で起こしたものと判明した。対人恐怖症になると、自分を表現できなくなり、人前へ出ていく勇気がなく、次第にひきこもりとなつてしまう。

不登校児のなかでは、自分自身の意見や考えを人前で表現できない状況になって、次第に対人恐怖症となつていく子どもが多い。対人恐怖症の一番の根元の理由は、自分の意見や考えを表現せずに、他人の考えに同調し、他人の感情のみを気にする生活を続けていくことにある。思春期近くになって、自分の考えや気持ちを他人の前で発表する時に、他人に気にいられたい気持ちが先に出てしまうと、自分の考え・感情が素直に出せなくなつてしまう。思春期の自立という状態が本能的に生れてくる時期に、他人の気持ちのみを考え、自分が表現できない子ども達は皆苦しんでしまう。そして「食べないこと」で自己表現しようとする。またそれをわかつてほしいとするメッセージをこめて、体重を減らしてゆく。小学校上級の食思不振症は、年齢の高い女子の同じ病気とはすこし異なる心理状態から発生する苦しみの自己表現である。(やざわ たけし)



ストレスへの対応

矢作南小学校長
山内博史

「一夜にして胃に穴が開く」これは人間が極限状態に置かれた時の事例と聞く。又、突然の難聴と頭痛の発生が、三か月前のストレスが原因であったという事例も聞く。こうした事例を目の当たりにした時、ストレスは恐ろしいものであり、決して甘く見てはならない。

広辞苑には、ストレスとは俗に言えば「精神的緊張をいう」とある。「いらいらする」「緊張するとトイレに行きたくなる」「ため息、冷や汗、震え、息切れ」等々、これらは精神的緊張による体調の変化の現れであり、このことから、毎日の暮らしの中にいかにストレスが多いかが分かる。

ストレスは一般的にはマイナスの要因であり、それが無い状況が望ましいと考えがちである。しかし、人



ふるさとシリーズ
この人に聞く
模型を愛し半世紀

元模型店 店主
近藤 廣二 氏

春の暖かさを感じる日差しを受けながら、元模型店店主の近藤さんを訪ねた。

近藤さんは、昭和二十四年に模型店を開業された。以後五十年間、人々に親しまれてきたが、昨年末、閉店を惜しむ声を聞きながら、その幕を閉じた。

模型との出会いをお尋ねすると、「戦後間もなく、東京で蔵前の問屋街を歩いていたら、模型飛行機の商品が、ふと目に入りました。その時、これを作るとおもしろそうだなと感じました。」

と、懐かしそうに話された。

模型の販売だけでは営業が成り立たないということで、学校の教材として模型飛行機も取り扱われたそうである。当時、日本各地で模型飛行機の飛行大会が開かれ、岡崎からも多くの子供たちが県代表として全国大会に出場した。

模型作りの良さについては、次のように語られた。

「材料を見る力、設計図を理解する力が養われます。そして、組み立てる順序を考えて、実際に組み立てていく過程で手先の器用さが身に付きます。今後は、このような力を伸ばす教育が必要だと思います。」

この言葉は、今の子供たちに欠けている能力を的確に指摘されている。さらに、今の子供たちについて、「昔は、『おじさあん』と言って子供が店に飛び込んできましたが、最近では、こちらが話しかけても黙っている子供が多くなりました。」と、話された。

また、模型作りの魅力については、「部品をこつこつと集め、苦労して飛行機や電車が完成した時の喜びは、何物にも代え難いものがあります。」

と、熱く語られた。物が豊富にある現代社会において、作る喜びや感動の大切さを改めて教えていただいた思いがした。

近藤さんは店を営むかわら、模型飛行機作りの講師としても活躍してこられた。模型をこよなく愛し、夢やロマンを追い求めて半世紀。そこにはいつも模型を通して、人との関わりを大切にしていた近藤さんの温かい姿があった。

氏名 こんどう ひろじ
生年月日 大正十五年三月九日
住所 岡崎市連尺通二の五



の成長、人間関係の広がり、組織における立場の変化の中にあつては、それは当然つきまとうものであり、逆に、適度の緊張は、人間が成長する上に欠くことのできないものである。そこで、ストレスのない状況を目指すのではなく、仕事とストレスをどう絡めていくかを考えることが大切である。そのためには、仕事の中にストレスに負けない方策を入れておくことである。このことは特別難しいことではない。

・気分転換で神経・精神をほぐす。
・体・筋肉をほぐして、頭・神経をリラックスさせる。

これができるればよいのである。内容はいたって簡単であるが、問題はこのことの重大さに気づかず、ストレスを甘く見てしまうことである。そこに、ストレスへの対応ができない難しさがある。

気分転換となる余暇や趣味の活用を、個人のいわゆる「遊び」というマイナスのとらえではなく、「仕事の能率向上、社会的成長」としての重要な要因の一つとしてとらえることが大切なことである。このことは個人だけの対応では不十分であり、職場全体や周りの人々もそんなとらえが必要である。

キャンパスライフを支えて

～岡崎育英会東京学生寮～



▶東京学生寮全景

＝東京学生寮のあらまし＝

所在地	千葉県市川市八幡一丁目二一の五
都心への所要時間	お茶の水方面約三〇分
寮生個室	五〇室(約八平方メートル)
寮費・光熱水費	月額一、六〇〇円

「やっぱり仲間かな。」
 「寮に帰ってきたとき、『お帰り』とかいう言葉があるとおぼつとしますね。」
 と、寮生活の良さを語ってくれた二人の大学生。この二人をはじめ岡崎市出身の学生五十人が生活している場。そこが、財団法人岡崎育英会東京学生寮である。この学生寮は、共同生活の場を通じて健全な教養を身につけ、学業達成に努める学生を育英することを目的として、昭和四十二年に設立された。

ここ数年、岡崎市出身の学生の交流を深めるベースキャンプ的な役割を担うとともに、新入生歓迎会や追い出しコンパなどの、寮生による独自の活動も活発になっている。

また、厳しい財政の中ではあるが、行政も育英事業の価値を認め、設備改善に努めている。例えば、壁や床の張り替え、二十四時間利用できるシャワーや食堂へのエアコンの設置である。

寮の中の生活は、寮生の責任において進められている。共同で使う風呂場、炊事場などにかかわるルールが自然とできている。かつては、食事の世話もしていたとのことだが、寮生の生活が多様化してきたため、それはなくなった。そんな中で、寮長は仲間の大切さを学生に強く訴え、寮生もそれにこたえて仲間作りに励んでいる。寮生は一人で過ごす時間のバランスをうまく取りながら生活を送っている。冬の晴れた朝早く、寮の屋上からは富士山を眺めることができる。その富士の遥か向こうにある故郷岡崎を思い浮かべながら、寮生たちは夢に向かって走り続けている。



◀寮生たちとの暮らしを綴った
 東京学生寮寮長日誌
 「あしたの風」



▲東京での新生活のスタートだ



▲「みんなで食べる食事はやっぱりうまい！」



▲今日はまじめに学習会

▶寮自慢のテレビの前で
中日優勝バンザイ！



▼故郷岡崎への思いを馳せて：
(屋上からの眺め)

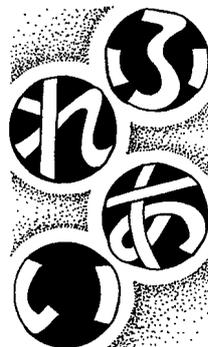
▼屋上の物干し場にて



▲寮生会で互いの生活を見つめ直す



▲共同生活には欠かせない「伝言板」



最高記録の舞台裏で

岡崎小学校
蓮尾 洋子

長縄大会に向けて、クラスでの練習に熱が入ってきたある日、少し離れた所で、小さくなつて泣いているA子がいた。A子は自己主張が強く、自分の意見を押し通そうとすることが多い。当然、子供たちからの風当たりは強く、厳しい批判を受けるのだが、本人は意に介さない態度をとっている。そのA子が泣いている。

A子の回す縄の速さについていけず、日ごろの言動のこともあつて、みんなの不満が頂点に達したようだ。

今までの練習でいつも軽快に縄を回していたのはA子である。掛け声をかけ、体でリズムをとり、みんなの様子を見ながら回す姿は、だれよりも優勝への気持が強いよう



に見えた。だからこそ、回転も速くなるのだろう。そんなA子の気持ち、みんなに伝わらない。

「長縄はチームワークが一番大切でしょ。優勝したい気持ちはみんな同じなのに、このままでいいのかな。」

と、話した。A子も入れて、いろいろな子が回した結果、「やっぱり、A子ちゃんが回すのが一番跳びやすいよ。」その言葉を耳にして、A子の顔が輝いた。A子の弾んだかけ声が再び運動場に響き、次々に跳んでいく子供たちが回す子と跳ぶ子の気持ちが一つになったその時、クラスでの最高記録を出すことができた。

師弟同行

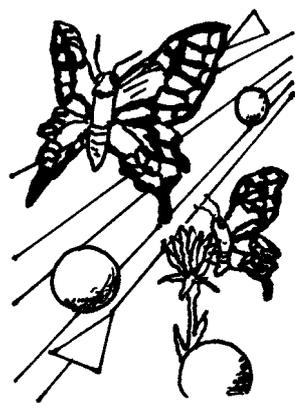
守りたいもの

美合小学校

香村 敏之

先生、大樹寺小学校時代、琵琶湖方面へ仏像見学の小旅行をした時のことを覚えていらっしゃるでしょうか。あの時に見た渡岸寺の十一面観音像の堂々たる森厳な美しさとそこから受けた感動を私は今も忘れることができません。

こんな思い出のある大樹寺小。何より新任教師として不安な気持ちで赴任した学校に、美川中学校で社会学を教えていただいた先生がいらつしやうったことが、どれほど私の心の支えになったか。機会あるごとに声を掛け、励ましていただきました。初めての研究会では、先生の姿から研究や授業の進め方、子供との接し



方、社会学のノート指導など、多くを学ぶことができました。

渡岸寺の十一面観音像は、寺が戦国の兵火にかかった時、土地の人の手で救い出され、地中に埋められて難を逃がれたと伝えられています。今、学校教育は、大きく変わろうとしています。その流れの中で、大切に守っていかねばならないものがあるのではないかと思います。この機会にご示唆をいただければ幸いです。

日々刻々変わる子供

前三島小学校長

長坂 則彦

香村先生、図工科指導員のお務めご苦労さま。地味ではあるが、その人柄を感じさせる指導ぶりに目を細めていました。

あなたの記していました渡岸寺の十一面観音は、私にとっても衝撃的な出会いでした。その後も十一面観音を見るにつけ、この仏さんはなぜ十一もの顔を持っているのだろうかとその答えを求め続けてきました。

慈悲に富んだ本面、怒りと賞賛を示す左右の面、大笑する真後ろの面、その後幾多の十一面観音を見るにつけ、教育者はまさに十一面観音のように多くの顔を持たねばならないと思うようになりました。教師の本面は無数の愛であるが、時に応じ、場所に応じて様々な顔を使い分けができる先生こそ人間教育の天才であることをこの観音像は示しているのだと気づいたので。

子供は無数の可能性をもっていると言われる通り、柔軟性や多面性に富んでいます。こんな柔軟性や多面性を、大人の私たち教員一人一人が見失ってははいけません。日々刻々と変わる子供の多面性への洞察を深めたいものです。



◆平成十二年度校長会役員

〈小中学校長会〉

会長 長谷川晴彦(甲山中)
副会長 織田 和幸(六美南小)

大井 正之(新香山中)
荒木 俊夫(常磐東小)
柴田 敏希(根石小)

筒井 一夫(南 中)
庶務 加藤 一彦(常磐南小)
澤 博史(葵 中)

庶務補佐 山本 廣子(藤川小)
会 計 鈴木 敏雄(大樹寺小)

柴田 隆夫(矢北中)
会計補佐 藤田 吉信(六美中)
中山悠久夫(広幡小)

評議員 夏井 行男(恵田小)
野崎 公夫(竜谷小)
大山 一男(常磐小)

鈴木 正純(六美北小)
石原 紘二(生平小)
内藤 廣光(梅園小)

〈小学校長会〉

会長 織田 和幸(六美南小)
副会長 荒木 俊夫(常磐東小)
加藤 一彦(常磐南小)

柴田 敏希(根石小)
庶務 山本 廣子(藤川小)
会 計 鈴木 敏雄(大樹寺小)

〈中学校長会〉
会長 大井 正之(新香山中)
副会長 筒井 一夫(南 中)

澤 博史(葵 中)
会計監査 二村 邦彦(矢作中)

庶務 石川 春次(城北中)
会 計 柴田 隆夫(矢作北中)
会計補佐 藤田 吉信(六美中)

〈専門委員会委員長〉
法制 平野 有行(竜海中)
理財 鈴木 忍(秦梨小)

給与 杉浦 正明(竜美丘小)
文教 杉浦 博司(連尺小)
進路 河合 好文(竜南中)

松井 幸彦(緑丘小)
杉浦 正明(竜美丘小)
杉浦 博司(連尺小)
二村 邦彦(矢作中)
石川 春次(城北中)
牧野 好博(美川中)
平野 有行(竜海中)
浅井 昭二(岩津中)
菅沼 剛(東海中)

◆平成十二年度研究発表校

六月十四日 竜海中
「自ら追究し、自己向上をめ
ざす生徒の育成」

六月二十日 東海中
「自らの良さを自覚できる生
徒を目指して」

六月二十七日 城北中
「豊かな学力をつけるマルチメディア
教育の効果的な指導の在り方」

六月三十日 根石小
「心がふれあう読書指導
—学校の特色を生かした総
合的な学習—」

十月十三日 羽根小
「楽しく学び、確かな力をつ
ける」

十月二十日 矢作中
「だれもが活動する中学校
—自らの活動を通して未来
を観る—」

十月三十一日 六美南小
「生きる喜びを感じ、自ら学
ぶ子の育成」

「総合的な学習の試み」

十一月十日 三島小
「豊かに感じ、自ら考えを深
める子どもの育成
—共生の精神を育てる交流
のあり方—」

十一月二十一日 甲山中
「生きる力を育む甲山教育の
創造」

十一月三十日 矢作幼
「子どもの健やかな成長を願
って
—家庭との連携を考える—」

◆平成十二年度市教育委員
学校訪問

五月十一日 城南小
五月二十五日 広幡幼
六月二十九日 岩津中
七月 六日 上地小
九月二十八日 梅園小
十月 五日 奥殿小
十月十九日 六美北中
十一月二日 北野小
十一月十六日 葵 中
十二月 八日 藤川小
十二月二十二日 恵田小



▲ 現職教育委員会総会

・カ
ツ
ト
六
ツ
美
中
青
木
貴
之



ふれあい牧場

(平成3年)

平成四年、新教科「生活科」がスタートした。教育と生活を結びつけるために、各方面でさまざまな試みがなされた。そのひとつが「動物とのふれあい」である。この上地小学校でも、平成三年十一月にヤギの飼育舎「ふれあい牧場」が、学区の方々と教職員の手作りで完成した。トカラヤギやヤクシマヤギ、それにチャボが飼われた。今でも、子供たちとのふれあいの場になっている。



写真提供 上地小

新任教師のはつらつとした声が響く教室。そこには、子供とともに伸びようとする若葉のようなエネルギーがある。体は新任に戻れないが、あのころの熱い思いと澄んだ目だけはいつまでも忘れずにいたい。

シ **オ**
ス **ア**

数ミリの誤差もないように材料を組み立てる。模型作りの醍醐味は完成の喜びとともにその過程にある。戦後まもなく模型店を始められ、五十年もの間子供たちの夢を育んでこられた近藤さん。模型飛行機は男のロマンと語られるその目は今も輝いている。

お茶の水まで三十分。移り変わる窓の景色から、遠く故郷を思い出す新入生。音楽を聴きながら、フランス語の暗記に時間を費やす二、三年生。立ち並ぶ会社の広告塔に就職先を迷う四年生。さまざまな思いを乗せ、電車は都会の街に溶け込んでいく。

新しい友達にも慣れ、運動場には、子供たちのにぎやかな歓声が響きわたる。そこには、教室とは違う生き生きとした子供本来の姿がある。その中に、先生も一緒に遊ぶ姿を見つけた。こうしたふれあいの中から、お互いの信頼関係が生まれる。



- *だから、あなたも生きぬいて 大平 光代 講談社 ￥1400
- *「超」発想法 野口悠紀雄 講談社 ￥1600
- *河辺家のホスピス絵日記 河辺貴子・山崎章郎 東京書籍 ￥1500
- *子どもが育つ魔法の言葉 ドロシー・ロー・レルト、レイチャル・ハリス P H P 研究所 ￥1500

*広辞苑を読む 柳瀬 尚紀 文春新書 ￥690
言葉の意味や使い方を知るのに、広辞苑はどうしても必要な辞書である。「私が21世紀の日本語です」と広辞苑、第5版は、宣伝され売り出された。7年前に出た第4版に、新たに収録されたのは1万項目である。言葉は、時代とともに変化していくものである。そうした言葉の移り変わりや成り立ちを、著者は、「辞書は引くだけでなく読むものである」と、他の辞典や第4版までの広辞苑などと比較しながら、楽しく読んでいます。